

森林やまがた

No. 52

2001 7月



第53回全国植樹祭記念プレ植樹祭(平成13年度山形県植樹祭)

森のくに宣言祭

主催/山形県 第53回全国植樹祭山形県実行委員会 飯豊町 (財)山形県みどり推進機構 東南置賜林業振興協会 西置賜林業振興協会



森のくに宣言祭：飯豊町「源流の森」



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

目次

森のくに宣言祭： 飯豊町「源流の森」…………… 1	現地ルポ 最上町 大場満郎の冒険学校…………… 7
プレ植樹祭「森のくに宣言祭」 開催される…………… 2	5年目を迎え1000人突破！… 8
根づきはじめてた友好林…………… 3	特用林産功労者表彰…………… 9
自然に親しむ緑の少年団活動… 4	山形県の名水・湧水……………10
目に緑のごちそうを…………… 5	山形県の古木・名木……………10
森林環境教育 全国シンポジウム開催…………… 6	木材市況……………12

「みんなが森林の応援団」 プレ植樹祭「森のくに宣言祭」開催される

来年春、金山町で開催される第五十三回全国植樹祭まで、あと一年。

プレ植樹祭「森のくに宣言祭」が六月二日（土）～三日（日）の両日、飯豊町中津川の源流の森で開催され、「みんなが森林の応援団」をスローガンとした県民総参加の森林づくり運動がスタートした。

初日は、源流の森実りの森において、千年後に残る森づくりを目指し、式典参加者や一般参加者が丁寧に、ブナやミズナラなど十三種類の苗木を植えた。その後、野外ホールにおいて、県内の緑の少年団八百三十人を含む約千五百人が式典に臨んだ。式典では、高橋和雄知事が、

『第五十三回全国植樹祭の本県開催を契機に、森づくりの行動の輪を大きく力強く育てるため、里山から始まる森づくりキャンペーンを県内全域で展開する』との「みんなが森林の応援団宣言」をした。

本県になじみの深いオカリナ奏者本谷美加子さんが、里山の



一万人植樹



もり森林づくりの誓い

現風景をイメージしたキャンペーンメロディを発表した。

続いて、齋藤飯豊町長の歓迎の言葉があり、山科県議会議員ほか二名の祝辞があった。

全国植樹祭の会場となる金山町の緑の少年団に、高橋知事から県内各地のブナの実から育てられた苗木が送られ、代表の山田玲さんが「来年、全国のみなさんと一緒に植樹できる日まで心を込めて育てます」と、誓いの言葉を述べた。

式典の最後に、高橋知事や齋藤飯豊町長らが記念植樹を行い、

ブナや置賜さくら回廊の代表樹エドヒガンザクラを会場に緑の少年団と一緒に植え付けた。昼からの第二部は、楽しみながら森を体感することを狙いに源流の森を「森のくに」とした、テーマパークに見立て、地元住民の歓迎ステージ、テレビ人気キャラクターショー、森のクイズ大会、各種体験コーナーなどが展開され、二日間の参加者が一万人以上となる大賑わいのフェスティバルとなった。



大賑わいのフェスティバル

根づきはじめた友好林

―「第二回山形・ハルビン友好林造成」報告―

この事業は、県みどり推進機構の国際協力事業として、姉妹県省協定を締結している中国黒竜江省の仲介により、ハルビン市で実施しているものです。平成十二年度から十四年度までの三年計画。昨年と本年度で合わせて、2haの森林が造成されました。今回は、県内各地からの公募ボランティアで植樹団が結成されました。総勢三十四名、団長は当機構の細野理事長、五月二十七日に山形空港を出発しました。

翌日、植樹会場へ出発する前に細野理事長がハルビン市大平区の王局長に「植樹した樹木が根付くまでの数年間は、友好林の維持管理費用の負担について協力したい」と提案し、局長

は「喜んでお受けしたい」とのことでした。引き続き森林の効用や技術交流の必要性等についても話し合い、友好のうちたいへん有意義な会談となりました。

その後、植樹会場の天恒山林公園へ貸切バスで向かいました。山道で急なためバスは登れず、途中で降りて、十数分歩いて植樹現場へ。周辺にはカラフルな旗が立ち、苗木のトウヒ（和名、漢名雲杉）等は既に準備されていきました。昨年植樹したトウヒとライラックは十分管理されています。このようなハルビン市の行き届いた配慮に対しては、今回初めての団員だけでなく二回目の団員も感激しました。細

野理事長の挨拶の後、折目技術部長の植樹指導の下で、二十本の苗木を丁寧に植樹。当地の土は植壊土のうえ、降水量も少ないと

の現地技術者の助言があり、山形の通常よりも深目に植えました。



山形・ハルビン友好林記念碑の前で(右から王、理事長、曲、子の各氏)

植樹の合間に斎藤団員（造園会社経営）と現地技術者陶主任らとの間で技術交流が行われました。斎藤団員は、「以前から技術交流をしたいと考えていた。昨年は、植樹支柱の仕方につい

て図面を持ち込んで話し合いをした。今年は四月月上旬に採取して、冷蔵庫に保管していた西洋アジサイ（ハイドラランジア）と啓翁桜の二種の穂木を持ち込んで、現地で具体的な挿し木の方法を伝えた」と熱心に話してくれました。

このような技術交流を通して日中友好の輪は大きく広がり、友好林造成も無事に終えることができました。

これもひとえに参加された方々のご協力によるものとお礼を申し上げます。来年度もこの事業を予定しているので、是非また参加していただきたい。お知り合いの方にもお声をかけていただき、両県・市の友好がますます強まるよう、特段のご配慮をお願い申しあげて、報告とします。（財）山形県みどり推進機構

活動報告
緑の少年団



自然に親しむ

緑の少年団活動

中田小学校

六年 栗田 真理絵

わたしたちの学校は、見晴らしのよい高台にあります。周りは美しい森林に囲まれていて、春や秋には、校庭によくカモシカが遊びにきます。

緑の少年団には、四年生以上の十四名が入っていて、自然に親しむ色々な活動をしています。四月に、シイタケの菌を植えました。ほだ木に穴をあけ、菌を入れてトントンと金づちで打ちました。慣れてくると、とても楽しくなってきました。次から次へとどんどん菌を植えました。前のPTA会長さんに、木の中に菌が回ってキノコが出てくるのだと教えてもらって、とても不思議だなあと思いました。

六月に「暮らし考房」の栗田

和則さんの山の「学びの森」に行きました。三年生以上の十九人が、三十分間自転車をこいで森に到着しました。

この日は暑くて、汗がだらだら流れましたが、森の中はひんやりとして、とても気持ち良かったです。「森は、気温を下げる働きをしているんだなあ」と思いました。

はじめに、和則さんから、この森には、百三十種類の植物が生えていると聞いて「すごい種類だなあ」と思いました。

次に、青じしコースを歩くことになりました。青じしコースとはカモシカの通り道で、五十

度というとても急な坂でした。苦しかったけど、山を登っていると、探検家になった気持ちになりました。「カモシカはこんな急な坂を移動するんだなあ」と感じました。

最後に、森の中でカエデの樹液を飲みました。ハチミツのようなあまい味がしました。木がこんなにあまい樹液を作ること知らなかったのです、びっくりしました。「学びの森」の中で、今まで知らなかった森林のことを



シイタケの菌植えて楽しいなあ。

たくさん知りました。



「学びの森」で森林の学習をしたよ。

今年はこの他に樹木の観察会をする予定です。この活動は、去年木札をつけた自分の好きな木を観察するという活動で、どんな葉をつけているのか、どんな花を咲かせるのか、どんな実をつけるのか観察するのです。

このように、わたしたちは、自然に親しむ活動をたくさんしてきました。

自然に親しみ、自然の良さを知るために、これからも活動を続けていきたいと思えます。



目に緑のごちそうを

森林インストラクター
草刈早苗

「癒し系」がブームである。音楽・タレントまでが癒し系という分類をされ、もてはやされる。また、アロマテラピーやフットバスなどリラクゼーションものが流行っている。そのなかで最近よく耳にする言葉に「カラーヒーリング」というものがある。がご存知だろうか。直訳すると「色で癒す」という事で、色の持つパワーを利用して心と体を癒すというものである。

色的には、心理的な高揚感・安定感・鎮静など気分のコントロールや、血行・ホルモン分泌などを左右する。カラーヒーリングは、色の波動が与える影響を利用して体に負担をかけずに心身を癒そうとするものである。さて、その中で、緑色はどんな働きを持つ色なのだろうか。ひとことで言うとう、緑色は休息の色である。洋服に緑色を使ったり、緑の多い環境に身を置くと、人は気持ちいが穏やかになる。緑色は目のピントが合いやすい色で、肩こりや体の血行を良くするという働きを持っており、自己治癒力を高めてくれる色



緑のシャワーを浴びながらブナ林を散策。

と言えるのである。緑色と一口に言っても、いろんな種類の緑色がある。そしてそれぞれに自然の融和を特徴とする日本の伝統色名がついている。例えば、萌黄色は新しい草木が若芽を伸ばすような明るく少し黄身がかかった緑色である。生の竹の色で、やや白みがかかった冴えた青みの緑色を若竹色という。江戸時代の文献には別名ぬれは色とあり、雨に濡れた葉のように瑞々しい緑を表現している。これより明るい色を若竹

色、くすんだ色を老竹色（おいたけいろ）という。さらには常緑の濃い緑色を表す千歳緑（せんざいみどり）・常盤色（ときわいろ）、冬の季節でも緑を保つ常緑樹の色は長寿を意味し、その代表的な木としての松からとった松葉色も目出たい色として好まれたきた。その他にも柳色・苔色・山葵色など自然界の緑色の多様さがうかがい知れる色名のバリエーションである。緑も濃くなり、アウトドアシーズン真っ盛りの夏到来。心と体に癒しを求めて、森林に足を運んでみてはどうだろうか。目に飛び込むたくさんの緑色。樹木それぞれに違う緑色に目を留め、のんびり森林を歩いてみるといつもとは違う発見があるかもしれない。まずは手軽に森林浴で、自然に親しみ心と体をリラックスさせることをお勧めする。



山形県知事あいさつ

第五十三回全国植樹祭(平成十四年度)記念行事
森林環境教育全国シンポジウム開催
 ふれあい、まなび、つくる森林を目指して

六月十六日、山形市の「山形テルサ」において森林環境教育全国シンポジウムが開催された。本シンポジウムで三回目となるこの催しには、県内外から行政の林務担当者、学校等教育関係者、林業森林づくりの実践者等六八〇人が参加した。

山形市の「山形テルサ」において森林環境教育全国シンポジウムが開催された。本シンポジウムで三回目となるこの催しには、県内外から行政の林務担当者、学校等教育関係者、林業森林づくりの実践者等六八〇人が参加した。

森林とのふれあい体験を通じて森林環境教育のあり方について討議、意見交換を行うことを目的として、全国森林組合連合会、山形県森林組合連合会及び第53回全国植樹祭山形県実行委員会が共催し、林野庁、山形県はじめ県内外の森林林業緑化団体が後援した。

基調討議は、『森林環境教育への期待と提言』と題して山形大学名誉教授北村昌美氏、林政審議会委員・青森大学大学院教授岡島成行氏の二氏を講師にむかえ、水野一男氏のコーディネーターにより行った。

ここでは、森林環境教育は森林の重要性を広く認識してもらうためにどのような方法をとつ

たらよいか、また、森林の環境に及ぼす影響を常に維持するために森林の施業をどのようにしなければならないのか、理論の周知等を徹底するよりも、実際に森林に入つて親しみ感じてもらふことのほうが望ましいし、森林人の常識が知られていないため、木を伐ることは「悪」といったまちがった認識がはびこっており、その点から考え直してもらふ必要がある。「山形県はブナの生育面積が日本一でもあり、東北文化論・ブナ帯文化の発信基地として十分対応できる自然要素を備えている」と強調した。

午後からは、五つの分科会が行われた。まとめの全体会では、川島直氏がコーディネーターとなり、分科会で交わされた意見の取りまとめを行った。都市と山村の交流が必要であり、教育

とは授けるものではなく論し育む事である。積極的に森に入り、森とはどういうものであるか直接肌で体験することが最も大事なことであり、森林の専門知識を備えた人がそこにいることによつて山の魅力をより引き出すことが出来、中身の濃い体験となると結論した。

山形県において、森林・環境及び教育が一体となったシンポジウム開催は初めてのことであり、平成14年度に金山町において開催される全国植樹祭の主旨に結び付き、来年開催に弾みをつけた。

翌十七日は「県民の森」、「山形市少年自然の家」においてワークショップを行い、森林環境教育を実践して行くうえで必要となる考え方や技術などを現地の体験を通じて討議した。

〔山形県森林組合連合会〕

現地ルポ

最上町 大場満郎の冒険学校

みなさんご存じの、北極圏などを単独徒歩で走破した最上町在住、大場満郎さんを顕彰し、今後の活動を支援する目的で、町は平成十二年度前森高原に建物を建てました。

前建設省の雪国体験交流施設補助事業で、木造一部二階建て延べ五五六平方メートル、宿泊室、展示室、浴室、講義室、食堂などがあり、名称は「ビッグハウス」と言い、「アースアカデミー・大場満郎冒険学校」の事務所が町から管理運営を委託されています。

取材中、大場さんは、「自分が育ったこの町の景観は、世界に誇れるものと思っている。若



いとき農業などを経験したお陰で、今まで歩いた他国の自然がすぐくみすぼらしく、この自然豊かな環境を多くの人に認識させ、エコロジカル・バランスを保つ教育を実践したい」と強調していました。

したがって、建物もなるべく

大場さんの意思を尊重し、木材などの自然建材を多く使用していました。ちなみに、戴いた名刺の材料も古紙百パーセントでした。

スタッフは、大場さんと同じ目標を持ち、その行動力に感動した方で、県外の方も多くおりました。

これまでも報道機関から取材された「北極何日間ツアー」など実践してきましたが、この建物を核にして、子供や悩める若者達に自信をつけさせることと恵まれた自然の恩恵を、篤と教えて行きたい、とのことでした。

しかし、この学校として必要なのは、田・畑・山・川などのフィールドです。

田は大蔵村に準備できたそうですが、山はまだ持っていないそうですので森林組合の林地供給事業の活用や賃貸契約を勧め



展示室

自由に活用できる森林では、厳しさとともに悠々な生活教育を夢みておりました。

さて、開校式は六月二十四日ですが、その前日にはここで、町主催、県みどり推進機構共催の乗馬、植樹、下刈などのメニューが組まれた「アニマル・セラピー」という行事が実施されました。

〔最上総合支庁森林整備課〕

五年目を迎え一〇〇〇人突破！ 森林にやさしい仕事を

林業公社が公社造林地をフィールドとして展開してきた森林づくり体験も、今年で五年目を迎えることができました。

延べ人数で、千人あまりの力がたがたに参加していただいたこととなります。



五月二十六日 西川小倉公社

参加者の方々もしだいに顔見知りになり、言葉を交わすうちに、森林の中で楽しく遊びたい、もう少し技術的なことを知りた

いなど、一人一人森林に対する接し方も考え方もさまざまです。そんな中、より身近な里山で森林に親しむ機会を創造したいという思いもあり、従来の作業中心のプログラムから、山での安全な作業のための学習や、鎌や

鋸など用具の手入れの仕方を取り入れていくことにしました。里山で山仕事をしている方々は、ことのほか道具を大切に管理し、いとおしむように使っておられます。道具を手入れするということは、森林にやさしい

仕事ができるということなのです。

五月、西川町、西川小倉公社造林地で東京ガスの社員の皆さん二十六名参加で枝打ち作業を行いました。その中の一人が「木がどうしてほしいのか耳をかたむけなくちゃな」と言った言葉が印象的でした。

りをめざし、林業公社では少しずつではありますが、公社造林地をフィールドとして森林作業を中心に、山を守ってきた地域の方々との参加者の間の交流を深めて行きたいと思えます。

〔財〕山形県林業公社

“2001” 森林体験案内

「水源の森」森林づくり体験

- 7月14日 (土) ……………参加者募集中
森林保育 (下刈) と源流の森自然観察会
飯豊町中津川 宇津沢中ノ沢公社造林地
- 7月28日 (土) ……………参加者募集中
安全作業の講習と森林保育 (下刈)
寒河江市 森林研究研修センター 田代横前沢公社造林地
- 8月25日 (土)
草木旅人と楽しむ森 尾花沢市鶴子ふれあいの森
- 8月29日 (土)
被害地植林、森林災害と環境を考える
白鷹町 白鷹町小屋館公社造林地
- 10月27日 (土)
森林保育 (枝打) 特用林産物の栽培と手入れ
尾花沢市 鶴子ふれあいの森 鶴子公社造林地

問い合わせ

(財)山形県林業公社 TEL 023-623-3505

特用林産功労者表彰

五十嵐 勇喜さん (温海町)
高橋 弘嗣さん (鮭川村)

去る五月二十二日、東京都内

において、平成十三年度日本特
用林産振興会通常総会が開催さ
れ、その席上で第十四回特用林
産功労者表彰が行われました。

この表彰は、地域の特用林産
の振興に永年にわたり尽力され、
現在も活躍されている方に贈ら
れるもので、本県からはこれま
でに十三名が表彰されています。
今年度は、温海町の五十嵐勇
喜さんと鮭川村の高橋弘嗣さん
の二名が表彰されました。

五十嵐さんは、農林業に従事
するかたわら、関川しな織協同
組合の専務理事として、温海町
関川地区に古くから伝承されて
いる「しな織」の振興を図るた

めに活躍されています。

しな織は、日本最古の織物の
ひとつとされ、シナノキ科のオ
オバボダイジュ又はシナノキの
樹皮を原料とする糸を織ったも
ので、かつては、冬期間の女性

の副業などにより、せいろの布
や畳の縁など生活用品の材料と
なる布がつくられていました。
町では、従来個々の家に対応
していたしな織りの生産拠点と



五十嵐 勇喜さん

して昭和六十年に温海町しな織
りセンターを建設、同時に施設
を利用した生産組織を設立し、
町の特産品づくりを始めました。
五十嵐さんは、このしな織り
を生産から販売まで体系的に整
備するため、平成元年に関川し
な織り協同組合を集落全戸加入
で設立し、その専務理事として

原材料の確保や後継者対策など
に尽力されています。
高橋さんは、鮭川村で稲作に
従事するかたわら、昭和五十二
年からひらたけ、なめこの栽培
を始め、農業収入の拡大に努め
てきました。さらに、経営の有
利性を考え、昭和五十六年に空
調施設をいち早く導入し、ピン
栽培によるなめこの周年栽培を
開始しました。

また、大豊なめこ生産組合を
設立したことにより、組合員の
周年栽培への切り替えのほか、



高橋 弘嗣さん

新規の生産者が増加するなど、
全国有数のなめこの生産地であ
る鮭川村の菌茸経営の基礎を築
かれました。

その後も、昭和六十三年にい
ち早く農業法人を設立し、安定
経営化に向けた菌茸栽培に努め
るばかりでなく、大豊なめこ生
産組合長、鮭川村菌茸生産連絡
協議会長、最上広域菌茸協議会
副会長などの要職を歴任し、菌
茸産業の振興、産地形成、銘柄
確立などに尽力されています。

五十嵐さん、高橋さん、受賞
おめでとうございました。

〔県森林課〕



国道13号線バイパスから東方に、天童市若松地区を通り、若松寺、若松観音堂に至る道路の右側の沢沿いに、若松山権現堂からの伏流水が枯れることなく湧き出る冷水で（水温9.8℃）、近隣の人々に長寿の水として親しまれている。
〔山形県森林協会〕

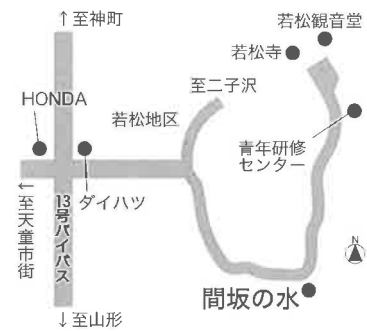
山形県の名水・湧水②②

ま ざか

間坂の水

天童市山元

案内図



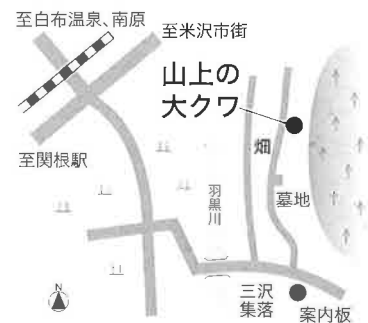
この地は以前、南置賜郡山上村であったことから、その地に生育するクワの大木ということで「山上の大クワ」と名付けられた。
根回り約五呎、地上高一・二呎での幹回り約四呎、樹高およそ十呎である。木の種類は、カラヤマグワの系統といわれ、樹齢は五百年を越えるものと推定され、県内でも最古のクワではないかと考えられる。昭和三十年八月一日山形県指定天然記念物に指定されている。
〔山形県森林協会〕

山形県の古木・名木②⑧

山上の大クワ

米沢市大字三沢

案内図



21世紀の緑を美しく、
安らぎと輝きの森林と水を求めて



社団法人

山形県林業コンサルタント

理事長 菅原 六郎

山形市松栄一丁目5番41号 TEL (023)647-1800
FAX (023)647-1801



もり
森林の鼓動が聞こえますか…

森林を守り育てる「林業従事者」の育成と確保を目指して

財団法人**山形県林業従事者育成基金**

(山形県林業労働力確保支援センター)

☎990-2334 山形市蔵王成沢字町浦535番地
山形県森林組合連合会内
電話(023)688-8220 FAX(023)688-8103

山形県緑化事業協同組合連合会



会 長 齋 藤 博
専務理事 富 田 昌 弘

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内
TEL 023-632-5148
FAX 023-641-9288


山形県林業機械化協会

林業機械化の先端情報をすばやく提供

会長 奥山 幸作 (株)ヤンマー農機山形 村山支店)

会員社名	(所在地)	会員社名	(所在地)
(株)ヤンマー農機山形村山支店	(村山市大字榎山)	日立建機(株)山形支店	(東根市大字若木字七窪)
(株)村上キカイ	(酒田市両羽町)	(有)東栄重車輜	(天童市大字清池字金石段)
(株)村山商工	(米沢市松が岬)	コマツ山形(株)	(山形市蔵王成沢字町浦)
東北建設機械販売(株)山形支店	(天童市高嶺字金石段南)	エレクトラックスジャパン(株)スカーブ	樽室(盛岡市津志田)
(有)林和機工	(山形市馬見ヶ崎)	東北ヤンマー(株)東日本営業部	(仙台市宮城野区福田町南)
山形県森林組合連合会	(山形市蔵王成沢字町浦)	(株)筑水キャニコム仙台センター	(仙台市太白区茂庭字入来田西)
東北共立エコー(株)山形営業所	(東根市大字郡山字ノギハ)	(株)南星仙台支店	(仙台市太白区西中田)
イワフジ工業(株)営業本部東北支店	(水沢市桜屋敷西5-1)	(株)山工社	(山形市宮町)

山形県林業機械化協会事務局 山形市桜町2-35(林業会館内) TEL 023-633-1536 FAX 023-624-0804



活かしてみましょ
夏のボーナスは
農林中金へ!


確定利回りの1年貯蓄

ワリノ **投資信託**



どなたでもお気軽に

農林中央金庫山形事務所
〒990-0042 山形市七日町3-1-11
☎(023) 641-6271



暑い夏にはきのこが一番!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 ☎023-630-2542



素	樹材種		材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較	
	スギ小丸太	スギ中丸太		スギ大丸太	米マツ中丸太	米マツ大丸太	北洋アカマツ中丸太
	3.65~4.00m	//	//	6.0m~	//	3.8~	
材				普通材			
製品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	61,500円	+900
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	58,100円	-300

木材市況

(六月一日現在)

印刷所 渡辺活版所 定価 一部二〇円

森林やまがた 7月号 平成13年7月1日発行 通巻第52号

編集 山形県森林協会 山形県

発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573